

第4期

事業報告書

自 2022年 1月 1日
至 2022年 12月 31日

公益社団法人スペシャルオリンピックス日本・福岡

基本方針総括

昨年は新型コロナウイルス感染への対策も3年目となり、活動再開と中止を波状的に繰り返し、アスリートを始めとした関係者のモチベーションを、如何に維持するかがより深刻になった1年であった。一方で関係者の努力により4年振りのナショナルゲーム・広島大会が無事開催できたことは明るい兆しともいえる。2022年度を事業、組織、経営の観点から総括し活動報告とする。

[事業]

●公益目的事業

・知的障がい者のスポーツ活動の充実

2020年以降、活動中止が長期に及んだため、2022年度はプログラム再開が可能となった際の事故発生が懸念されつつも、4年振りの全国大会「スペシャオリンピックス 2022 広島」に向け様々な対策を講じ派遣することができた。前後に関係者の感染増傾向がみられたが、大事に至るケースがなかったのは幸いであった。年末にかけ再び活動を中止せざるを得なかったが、日常生活でスポーツをする楽しさ、観る楽しさがもたらす喜びがいかに大切であるかを改めて実感することとなった。また、国内でもチーム競技を含めたユニファイド活動を推進する動きは加速している。その一方で福岡での取り組みは緩やかであるため、競技会への参加機会が相対的に減少する傾向にある。コロナ禍によりアスリート、ボランティアの減少傾向が続いたため、特にチーム競技の実施が困難な現状を打開するため、工夫が必要である。

・知的障がい者スポーツ振興のための人材育成

認定コーチ研修は引き続きオンラインでの研修が中心となった。2021年度からの実績を踏まえ、SO日本の研修制度は年間を通じ計画的に提供され、新規申請者及び更新対象者の受講はよりスムーズになったが、ネット環境の格差の解消はモチベーション低下を防ぐためにも一層必要と思われる。

・知的障がい者への理解を深めるための広報啓発事業

オンラインにシフトした取り組みが求められる一方、広くSO活動を推進するためには紙ベースのツールによる展開も必要であり、今後も併用しての活用を進めていく。紙面を一新したNEWSLETTERは、役員、ボランティア、ファミリー及び折々に積極的な配布活動をしたことで予定数を配布し、徐々に問い合わせが増えている。また、3年ぶりに「博多どんたく港まつり」が実施され、パレード隊として参加した。参加者は以前の半数であったが、日ごろ顔を合わせる機会が少ない仲間との交流の機会であり、楽しみながら活動のアピールができた。

●収益事業

・物品販売

活動資金調達のためファミリー委員会が自分たちにできる活動として長期にわたり取り組んでいる。安定した収益のために、魅力ある商品の開拓と継続した支援につながる販路拡大を図りたい。

[組織]

●専門委員会活動

- ・計画に基づき、「財務委員会」、「スポーツプログラム委員会」、「ファミリー委員会」、「広報委員会」、「医療安全委員会」の5専門委員会が活動した。

●財務基盤強化

- ・財務委員会が中心となり委員個人の地道な啓発活動により寄付や支援者の拡大に努力された。また、二つのライオンズクラブ様、並びにチャリティゴルフ大会実行委員会からチャリティを頂戴することができた。法人がイベントを主催できる環境にない現状では大変貴重な支援となった。

[経営]

●機構整備

- ・多方面からの協力者の確保

一昨年、対面とオンラインにシフトした事業をバランスよく展開することが必要との認識で、今の時代に必要なスキルを個々が身に着ける努力は一定程度の成果があったと思われる。誰もが参加しやすいシステムを構築することは予定通りに進んではいないが、今後とも必要なことであると考えている。

- ・他団体との協働

「コロナと共に」、「コロナ終息後」の活動のあり方を継続して見据え、ともにスポーツ活動を通し様々なユニファイド活動に取り組む機会の創出は今後とも重要な目標となる。他団体からのアプローチは学齢期を対象とするものが多く、アスリートの年齢に応じた活動が増えることを期待する。また、協力要請があったが、直接地区組織が関わるができなかった事業には他団体をつなぐことで、一定の成果を得ることができた。